

略歴

幼少期 与那城小学校～与勝第二
中学校～
学生時代 県立前原高等学校～上智
社会福祉専門学校卒業
福祉関連事務局 インテリ
ア 音楽関係等
1980年代 ラジオパーソナリティ
1990年代 タレント活動 司会業等
2002年9月 沖縄市議会議員(1期)
2009年8月 衆議院議員(4期)
2018年9月 沖縄県知事

- 好きな食べ物 野菜系チャムプルー、カレーライス
沖縄そば
- 好きな飲み物 甘くない炭酸系 泡盛 麦酒
- 好きな言葉 至誠通天・疾風に勁草を知る
- 座右の銘 「夢は必ず叶う」
「天は正論に信念と勇気を与える」
- 尊敬する人 小沢一郎 翁長雄志
アンマーとオッカー 2人の母



誰ひとり取り残さない 沖縄らしい社会へ

玉城デニー後援会では寄付を受け付けており、後援会の活動運営費などに充てさせていただきます。温かいご支援をお待ちしております。
ご寄付をいただく際には、住所、氏名、連絡先などの情報が必要となります(匿名での寄付はお受けできません)。ご協力いただける方はご入金の前にご連絡くださいませ。

【問合せ】

TEL 098-869-3588

E-mail d21.2416.okinawa@gmail.com (当真)

SNS でもさまざまな活動や情報を発信しております。
ぜひフォローなどよろしく願いたします。
下記のQRコードを読み取ってご登録ください

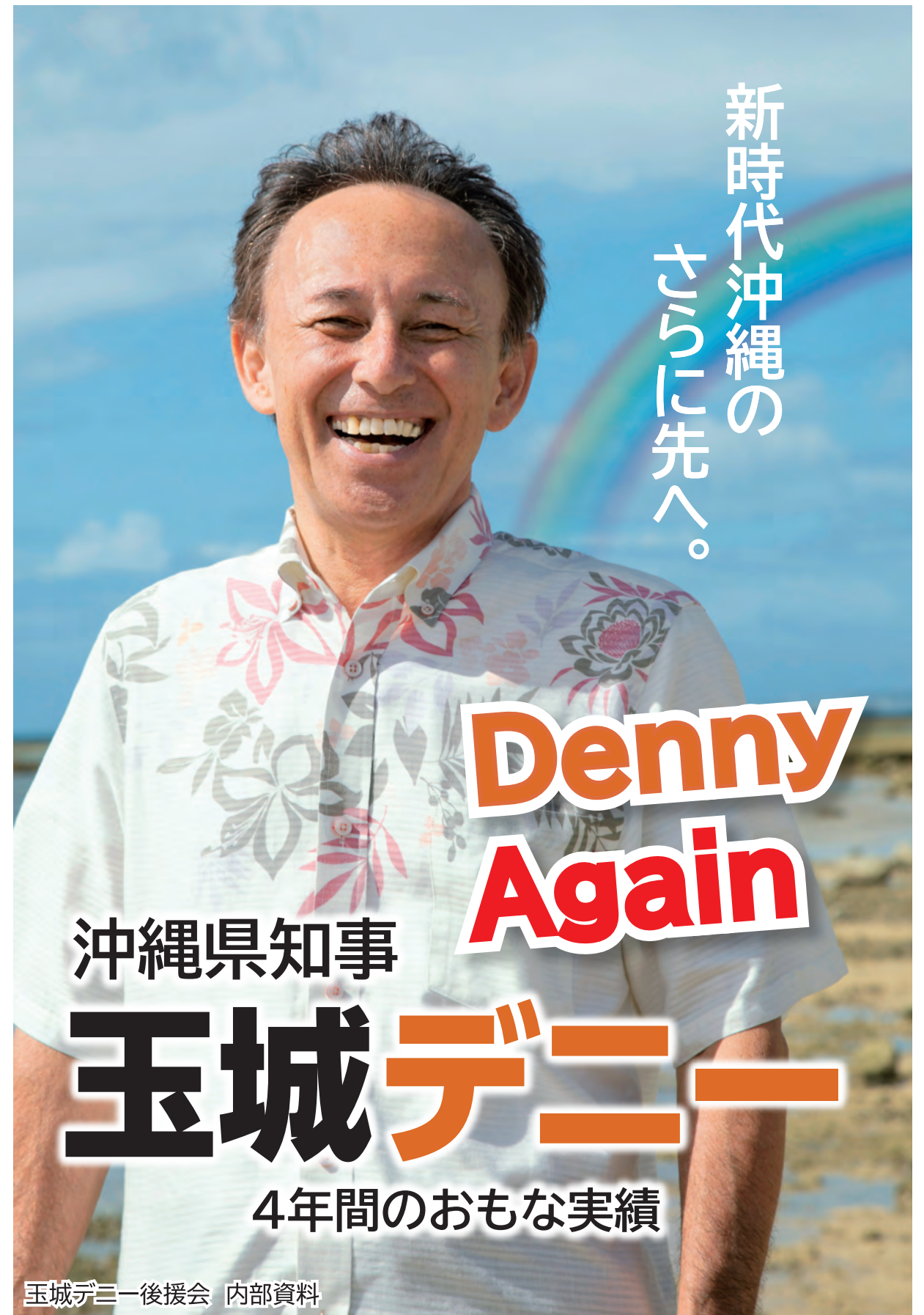
- ゆうちょ銀行
【総合口座】(記号)17060(番号)18756331
【口座名】タマキデニーコウエンカイ
- 琉球銀行 コザ十字路支店(店番号504)
【口座番号】(普通)911004
【口座名】玉城デニー後援会(タマキデニーコウエンカイ)
- 沖縄県労働金庫 コザ支店(店番号958)
【口座番号】(普通)3447929
【口座名】玉城デニー後援会(タマキデニーコウエンカイ)

Twitter
アカウント
@tamakidenny

Facebook
アカウント
@tamakidenny

「後援会公式」
Instagram
@tamakidenny_smile_days

LINE
友達登録はこちらから ↑



新時代沖縄の
先へ。

Denny
Again

沖縄県知事

玉城デニー

4年間のおもな実績

沖縄はこれから、日本最南端の一地方県から大きな飛躍と可能性の実現を目指します。
 世界のウチナーンチュ・ネットワークとつながる島へ。
 多様性や寛容性をはぐくみ共生する島へ。
 人権、平和、公平などの価値を大切にする島へ。
 伝統文化、歴史、国土、自然を未来の世代へつなぐ島へ。
 玉城デニーが4年間で取り組んできた291全ての公約からいくつかを紹介し、「新時代沖縄、さらにその先へ」の展望へとつないでまいります。



「新時代沖縄」の到来

～島々の鼓動を 人々の輝きを。

限りない沖縄の可能性を未来へ～

令和2年度～4年度
観光需要喚起へ
 504億円

おきなわ彩発見キャンペーン事業
 GoToおきなわキャンペーン事業
 etc.

観光振興基金
 の創設

令和4年度/40億円
 さらに拡充へ

令和元年度～2年度
離島の振興

1342億円

本島・北大東村の海底光ケーブル
 離島8町村の水道広域化 etc.

産業間連携おきなわ
ブランド戦略の推進

国内・海外市場を視野に
 入れた沖縄ブランド支援

奨学金
返還を支援

令和4年スタート

万国津梁会議の設置

各テーマごとに開催した会議からの
 提言を新たな「振興計画」に反映

ている塾開講

女性の活躍支援

県内産業のDX推進と
県内情報通信産業の振興

沖縄県 性の多様性尊重宣言

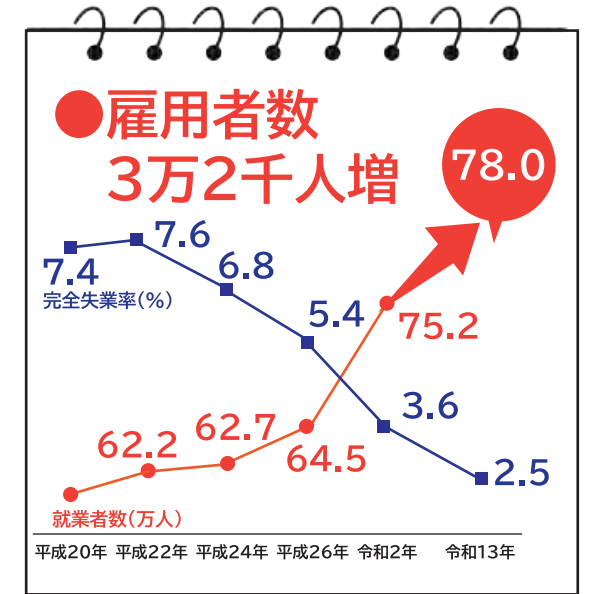
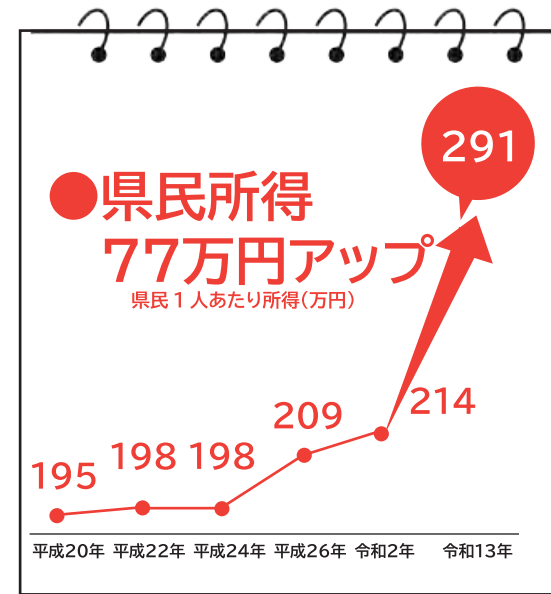
マイノリティーの尊重と共生の環境整備
 LGBTQ相談窓口の設置

グローバル産業人材育成

県内企業「稼ぐ力」強化
 人材育成

未来の沖縄に向かって

新・沖縄21世紀ビジョン基本計画からの参考資料



「自立型経済の構築に向けて、様々な分野で世界と繋がる国際交流ネットワークを活用し、未来を先取りし、時代の潮流を推進力に変え、デジタルトランスフォーメーションの推進や先端技術の導入等による生産性の向上、比較優位性を生かした付加価値の向上等を図り、経済の好循環を生み出す経済メカニズムの強化に取り組めます」

観光は平和への
パスポート

世界から選ばれる観光地へ

自立的発展と
持続可能な成長

域内経済循環と
自給率の向上

令和2年度 71.5% → 令和13年度 73.4%

鉄軌道を含む新たな
公共システムの導入促進
/モノレール三両化の実現

亜熱帯海洋性気候を生かした
農林水畜産業の発展

国際物流拠点の形成
臨空・臨港型産業の集積



誇りある豊かさ



～沖縄だからこそ平和が大切という思いを
沖縄から世界へ発信～

復帰50年 建議書を 策定

- 1.「沖縄県を平和の島とする」
- 2.「沖縄の基地問題の早期解決をはかること」
- 3.「日本国憲法に掲げる理念の追求に不断にとりくむこと」
- 4.「平和的な外交・対話により信頼醸成を図ることで同地域の平和の構築に寄与する」



大浦湾埋立て
設計変更
「不承認」
令和3年11月

日米地位協定改定
日米政府に強く求める。
全国知事会の要求に。

沖縄戦戦没者
遺骨収集
の加速化

PFAS等の調査と
国への要請
安全・安心な水の確保

ちゅうちな一草の根
平和貢献賞の創設
身近な社会貢献活動へ光を

訪米行動 沖縄の情報発信 米国に変化

- 「辺野古新基地は「完成することはおそらくないかのように思われる」
米・戦略国際研究所・CSIS
(2020年11月)
- 「新基地建設で沖合に滑走路を建設することが物理的に困難である」
米国会調査局・CRS
(2021年4月6日)

本土復帰50年に向けた 在沖米軍基地の 整理縮小の要請

日米両政府にさらなる
米軍基地の整理縮小要請



沖縄は常に未来をみつめる

沖縄を平和発信拠点に

「辺野古に新しい基地はつくらせない」という故翁長知事の遺志を引き継ぎ、過重な米軍基地のさらなる負担軽減を実現します。
「アジア・太平洋地域の更なる発展と持続的安定に貢献するため、本県が有するソフトパワーを発揮した地域協力外交により、平和発信の拠点に」

日米地位協定の抜本改定

住宅地上空の飛行禁止。
米軍に日本の検疫法適用。
米軍基地でのPFOS・PFOAなどの使用禁止。

辺野古新基地建設を止める。 普天間飛行場早期返還閉鎖

経済効果9000億円 米軍基地返還で経済発展

第32軍司令部壕 保存・公開事業 沖縄から平和の発信

「命どう宝」沖縄戦の実相・教訓を次世代に継承

沖縄らしい やさしい社会の構築

～すべての人が夢や希望を。
チムグクルとユイマールの笑顔ある平和な社会へ～

北部地域への
中高一貫校整備
令和5年4月開校予定

子ども医療費
41市町村中学卒業まで
窓口無料
令和4年4月～

就学援助金拡充
中高生のバス無料化
令和3年4月～(低所得世帯向け)

待機児童
7年連続減

ヤングケアラー
実態調査と
支援スタート

「性暴力被害者ワンストップ
支援センター」
の拡充

保育料無料化

0～2歳児 住民税非課税世帯
3歳児以上 全世帯対象

母子健康(子育て支援)
包括支援センター

24市町村が設置 (R3年12月)
さらに13市町村で設置予定

特別支援学校
那覇市に開校
中部地区へも計画

若年者の
就職支援
若者ジョブトレ

放課後児童
クラブ支援
14市町村で実施(R3)

沖縄県子どもの
貧困対策推進基金
30億から60億円に
積み増し

若年妊産婦に
対する支援

子供の権利尊重
条例の制定
児童相談所の
体制充実

少人数学級
の推進
中学校2年、
3年まで

パーキング
パーミット
制度導入
障がいのある方も安心

保育士確保
育成支援拡充



25年ぶりに粟国村へ行政視察に
行った時の子ども達とのふれあい

未来の沖縄に向かって

「子どもや障害者等のライフステージに応じた支援が図られ、子どもからお年寄りまですべての県民が安全・安心かつ健やかに暮らすことができる社会づくりに取り組みます」

子どもの居場所づくり
学習環境の整備

放課後児童クラブ
利用料の軽減

ひとり親家庭の
暮らし・就労・子育て支援

給付型奨学金など大学
などへの進学支援

沖縄北部医療センター整備推進
北部地区医療体制の充実

「国際家事福祉相談所」設置
令和3年より支援スタート

安全・安心で 幸福が実感できる島

～沖縄のすばらしさ、可能性、発展性を
あらゆる面から創造し、彩発見～



首里城の 復興・復元

首里城未来基金を新設
首里杜構想を策定
御茶屋御殿の調査費を計上

世界自然遺産登録の実現



「おきなわ工芸の杜」 設置

伝統工芸産業振興の拠点を整備



オオゴマダラ 県蝶を制定



クリーンエネルギー イニシアチブ策定

2030年度までに温室効果ガス排出量
26%削減(2013年度比)

11月1日 琉球歴史文化 の日制定

しまくとぅばの 保存、普及、継承

農業経営相談所の 設置 体制強化

沖縄県農作物 種苗生産条例 の制定

県産食材の 利用促進



第115回秋の全島闘牛大会
県知事杯優勝時の様子

未来の沖縄に向かって

「沖縄の豊かな自然環境や個性豊かな文化などのソフトパワーを生かし、海洋環境の保全と海洋の利活用の調和を図るとともに、沖縄と類似する地域特性を有する島しょ国・地域との共生に向け、取り組んでまいります」

首里城正殿 復元

令和 8 年

首里城を中心とした風格ある歴史まちづくり
を推進



国立沖縄自然史 博物館の誘致

低炭素で災害に強い エネルギー社会

- 再生可能エネルギーの導入拡大
2030 年度
意欲的な目標：18% 挑戦的な目標：26%
- 県産エネルギーの域内利用拡大
2030 年度
意欲的な目標：5% 挑戦的な目標：7%

沖縄空手世界大会 少年少女世界大会 FIBA ワールドカップ

デニーだからこそ！ 全力で新型コロナ対策

令和2年度から
令和4年度当初予算まで **総額6,765億円**

感染症対策

- 誰でも平等に受けられる無料PCR検査の設置
- 検査体制の拡充
- 医療体制の拡充
- ワクチン接種体制の拡充
- 空港におけるPCR検査の拡充

PCR検査
2万8千件 / 日
※10万人当たり
PCR検査実績全国4位

**宿泊療養施設8カ所・
広域ワクチン接種
センターの設置**

経済回復対策

事業者支援

- 事業継続支援
- 雇用維持支援
- 休業・時短要請に係る協力金支給
- 経済的に影響を受けた事業者の支援、観光振興基金

需要喚起対策

- おきなわ彩発見キャンペーン
- プレミアム付き旅行券
- 宿泊クーポン券等発行
- Eコマースによる県産品販売促進事業等

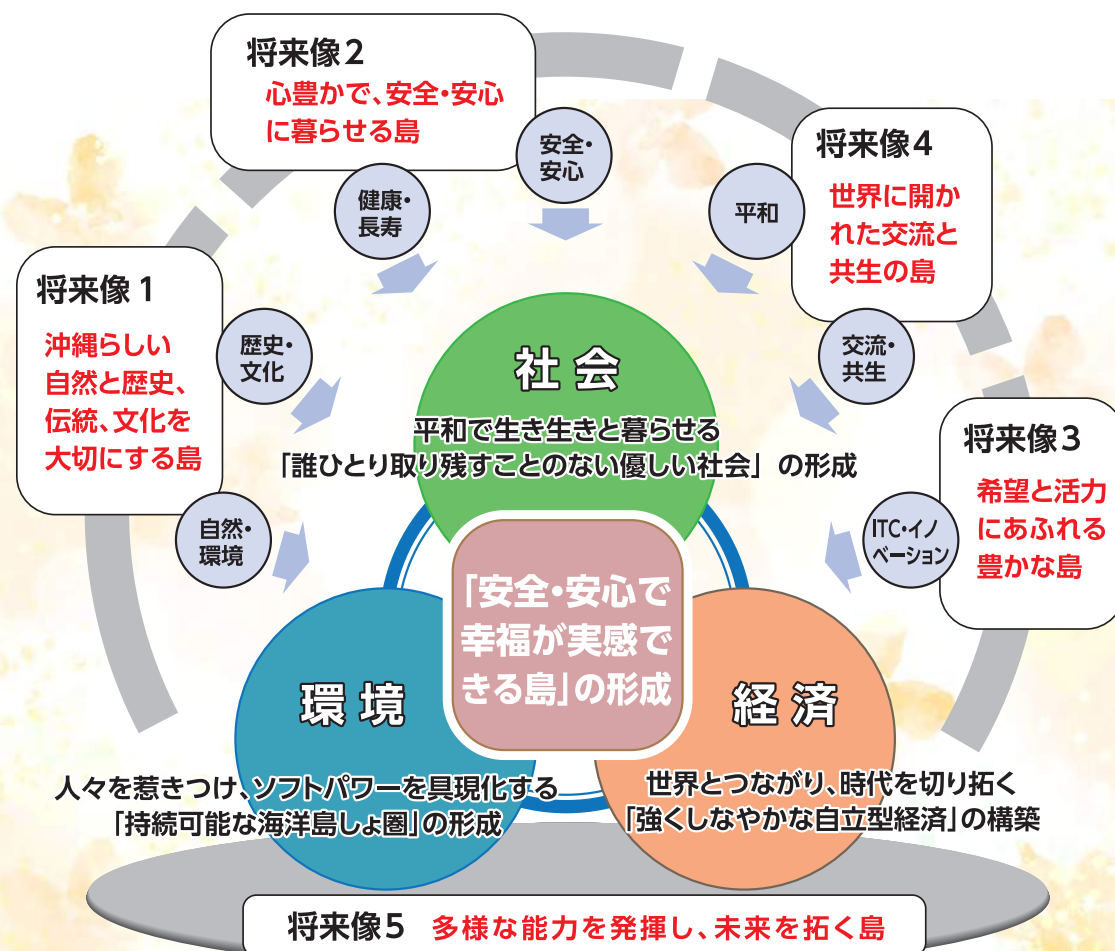
～県民の生命、暮らし、笑顔のために～

新時代沖縄の さらに先へ

《新・沖縄21世紀ビジョン基本計画》
～令和4年度から令和13年度～

- 社会・経済・環境の三つの側面が調和した「持続可能な沖縄の発展」と「誰ひとり取り残さない社会」
- ウィズコロナの新しい生活様式から感染症収束後におけるポストコロナのニューノーマル（新しい日常）に適合する「安全・安心で幸福の実感できる島」を形成し、県民全ての幸福感を高める。

本県の自立的発展と県民一人ひとりが
豊かさを実感できる社会の実現



沖縄らしいSDGsの計画 アクションプラン

基本理念

平和を求めて時代を切り拓き、世界と交流し、共に支え合い、誰ひとり取り残さない、持続可能な『美ら島』沖縄の実現

沖縄県は
エス・ディー・ジーズ
SDGs未来都市に
選定されました。



SDGsパートナーズをはじめ県民や事業者と連携・協調

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



人と笑顔とデニーがふれあう!



おきなわ国際協力・交流フェスティバル2020



県民の皆さんとのふれあい



北谷美浜での孫とのひととき



北部でのゲートボール中の皆さんへの挨拶



玉城デニー知事 学校訪問



粟国村の子どもたちと集合写真



地域の皆さんとのふれあい

県民に支えられてこれまで歩んできました。
県民と一緒にこれからも歩んでまいります。

沖縄県知事 玉城デニー



玉城デニーの原点、そして目標

沖縄県は「誰ひとり取り残さない、沖縄らしい優しい社会」を県政の柱に掲げ、SDGs(持続可能な開発目標)の推進に力を入れる。玉城デニー知事は「誰ひとり取り残さない」という、SDGsと同じスローガンを就任前から訴えてきた。なぜその思いが生まれ、実現を目指すのか本人に聞いてみた。

「どの指も大切」 個性を尊んだ育ての 母の言葉

伊江村出身の母と米軍基地に駐留する米海兵隊員の父との元に生まれた。父は帰国したが母は沖縄に残ることを決意。米軍基地建設に沸く名護市辺野古で母は住み込みで働いた。玉城デニーは血縁がない家庭に預けられ、心を通わせるウチナーンチュの温かさの中で育った。風貌が目立ち、心無い人からいじめられたという。

「泣いて帰ると、育ての母が言ってくれた。『トゥーヌイービヤ、ユヌタキヤネーラ

ンドー。10本の指は全部形も長さも違うけど、どの指も大切。違うからいいんだよ』。個性があるのが当たり前だと。オッカーの言葉から学んだ」

「夏休みにはバスと船を乗り継いで生みの母の故郷の伊江島に行った。小さな小学生でも農作業や家畜の世話の手伝いをする。地域の人は『マチタマ(屋号)の子でしょう』と声を掛けてくれた。みんなで子どもを見守る気持ちと温かい風土があった。



「おっかー」と呼んでいた育ての母・知花カツさんと、幼い玉城デニー知事

「出身の旧与那城村でも貧しかった時代でも子どもへの愛情は豊か。貧しいからこそ分け合い、分かち合う。そんなことをみんなで大事にしていた」

「誰ひとり取り残さない」 はなぜ？

「育ってきた環境から必然的に感じていたのではないと思う。10歳からは母とコザに住み、基地と共存する街の雰囲気を感じていた。1970年のコザ騒動は衝撃的で、何が起きたのか分からず『戦争か』と思った。成長すると共に、沖縄の民主主義の尊厳のようなものを先輩方から教わってきた。沖縄の戦後の歩みは人権や自由への闘いなのだ。みんなが幸せに生活していけること。そのためには多様性と寛容性こそ大切だと考えるようになった」

「その思いはラジオのパーソナリティーをしていた頃から強くなり、政治の道に進んだ時にも“誰ひとり取り残すことのない、沖縄らしい優しい社会”をつくりたいと思うようになった」

「SDGs」 県民と一緒に 取り組んでいく

「自立、共生、多様性をキーワードに人間の尊厳を守り、包摂性、寛容性を持った『共生の社会』の視点を大切にしたい。私たちウチナーンチュはチムグクルやユイマールといった精神を大切にしている。ウヤファーフジから未来の子どもたちワラビンチャーまで、生命が連なり、響き合う中に今の自分たちを重ね、さらにその先の沖縄を考える。そんな価値観

を共有できるのは県民の力だ。私たち一人ひとりが持っている沖縄らしさと、21世紀ビジョンと重ねたら、沖縄らしい、本物のSDGsが展開できる」

対話重視

「SDGsの成功の鍵はパートナーシップ。お互いの協力があって社会は持続できる。国、県、市町村が対話と協議を重ねる。先駆的に取り組んでいる県外の市町村に学び、県庁の不十分さも認め、克服しながら連携する。全ての人は何らかの関係者であり、県民の皆さんにもパートナーになってほしい。対話と協力・協調、言い換えれば『ユイマール』。ウチナーンチュが元々から持っているものを存分に発揮する。だから全然難しくないと思う」

「誰ひとり取り残さない社会」を実現するためには、一人でも多くの方が自分も参加者だという意識を持つことが必要。参加することが自分自身の成長のステップにもなる。そう捉えてもらえるといい。『みんなは一人のために、一人はみんなのために』。それが大切。

目指す「未来」

「健やかな環境の中で、子どもたちが人としての尊厳を持って育つのが当たり前前の沖縄にしたい。SDGsは理想を実現するための手だてで、世界共通の枠組み。大切なのはゴールを見据え、手前にある課題を順々に解決していくこと。人としての生きがいを感じられる社会へこれまでも、これからもウチナーンチュ同志で力を合わせていきたい」